

東京国立 博物館 ニュース

第688号
展示と催し物
案内

2-3 ◎ 平成20年度の東京国立博物館
特別展予定／国宝室展示予定ほか

4-5 ◎ 特別展「平城遷都1300年記念 国宝 薬師寺展」

6 ◎ 特別展予告

「フランスが夢見た日本——陶器に写した北斎、広重」

「対決——巨匠たちの日本美術」

7-10 ◎ 平常展見どころ案内2008年4月・5月

国宝 法華経方便品(竹生島経)／特集陳列「海外の美術品の修復」／特集陳列「日本に将来された蒔罫と紅安南」／重美 山姥と金太郎・杯／重文 毘沙門天立像／平絹播残欠〈辛酉年銘〉

11 ◎ 東京国立博物館コレクションの紹介 第1回

「広田松繁コレクション」

12-13 ◎ 教育普及事業

14 ◎ INFORMATION 15 ◎ TOPICS

16 ◎ 2008年4月・5月の展示・催し物

2008 45 月号



平成20年度の東京国立博物館

平成二十年度を迎えて

東京国立博物館長 佐藤 慎一

当館は、皆様のお支えで、昨年度も順調に事業を展開することができました。まずは厚く御礼を申し上げます。

今年度も、平城遷都千三百年記念の薬師寺展、日仏修好百五十周年を記念するオルセー美術館コレクション特別展（浮世絵などの図柄をモチーフとしたフランス陶器展）、『國華』創刊百二十年、朝日新聞創刊百三十年周年記念の巨匠たちの日本美術、我が国で初めて開かれるスリランカ文化遺産展、尾形光琳生誕三百五十年を記念する大琳派展、慶應義塾創立百五十年記念の福沢諭吉展、無相大師六百五十年遠諱記念の妙心寺展などの特別展を計画し、モスクワでの「サムライ—日本の武家の宝物」展、ボンでの「聖なる山の寺宝 醍醐寺・日本密教の僧院」を準備しています。また、「日本美術の流れ」や「仏像の道」などの工夫を加えた平常展示の充実にも努力を重ねてまいります。昨年度より新しく始めて、幸い好評な「みどりのライオン」（教育普及事業）や開発を進めているミュージアムシアターの魅力も皆様にお伝えしたいと思っております。引き続き皆様方のご支援をお願い申し上げます。

特別展の予定

平成館

2008年3月25日(火)～6月8日(日)

平城遷都1300年記念

「国宝 薬師寺展」

主催：東京国立博物館、法相宗大本山薬師寺、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社

日本彫刻史上最高傑作のひとつ金堂の日光・月光菩薩立像がはじめて寺外で揃って公開。



▶●日光菩薩立像 月光菩薩立像 飛鳥(白鳳期)または奈良時代・7または8世紀 奈良・薬師寺蔵

2008年7月8日(火)～8月17日(日)

創刊記念『國華』120周年・朝日新聞130周年特別展「対決—巨匠たちの日本美術」

主催：東京国立博物館、國華社、朝日新聞社

日本美術史上の巨匠たち12組の「対決」という斬新な視点から日本美術史を見渡します。



▲●繪図屏風(部分) 狩野永徳筆 安土桃山時代・16世紀
▼●松林図屏風(部分) 長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀

2008年10月7日(火)～11月16日(日)

尾形光琳生誕350周年記念

「大琳派展—継承と変奏—」

主催：東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション

国内外の琳派の優品を一堂に集め、個性豊かなその世界を紹介します。



▶●風神雷神図屏風(部分) 尾形光琳筆 江戸時代・18世紀

2009年1月20日(火)～3月1日(日)

※予定

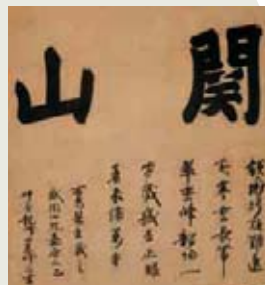
開山無相大師650年遠諱記念特別展

「妙心寺」※仮称

主催：東京国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞社

本山および塔頭の名宝を中心に、各時代に花開いた禅文化をご覧いただきます。

▶●関山字号 宗峰妙超(大燈国師)筆 鎌倉時代・嘉暦4年(1329) 京都・妙心寺蔵



表慶館

2008年7月1日(火)～8月3日(日)

日仏交流150周年記念

オルセー美術館コレクション特別展

「フランスが夢見た日本—陶器に写した北斎、広重」

主催：東京国立博物館、オルセー美術館、日本経済新聞社
浮世絵などの図柄をモチーフにした19世紀フランス陶器を展示いたします。

▶ランペールの楕円形皿 19世紀 オルセー美術館蔵



2008年9月17日(水)～11月30日(日)

※予定

「スリランカ文化遺産展」※仮称

主催：東京国立博物館、読売新聞社ほか

宗教美術を中心に工芸品など、スリランカの文化遺産を初めて本格的に紹介する展覧会。

▶観音菩薩坐像 8～9世紀頃 コロンボ国立博物館蔵



2009年1月10日(土)～3月8日(日)

慶應義塾創立150周年記念

「未来をひらく福澤諭吉」※仮称

主催：東京国立博物館、慶應義塾、フジサンケイグループ

福澤諭吉の活動と塾の歴史、併せて福澤門下生の実業家らが収集した美術品を展示。

▶福澤諭吉像(演説姿)(部分) 松村菊麿模 慶應義塾蔵



2008年3月25日(火)～4月20日(日)

●花下遊楽図屏風 狩野長信筆
安土桃山～江戸時代・17世紀



2008年4月22日(火)～6月1日(日)

●法華経方便品(竹生鳥経)
平安時代・11世紀



2008年6月3日(火)～7月6日(日)

●華嚴宗祖師絵伝 絵巻第2
鎌倉時代・13世紀 京都・高山寺蔵



7月8日(火)～8月3日(日)

●風信帖 空海筆
平安時代・9世紀 京都・教王護国寺蔵



8月5日(火)～9月15日(月・祝)

●平治物語絵巻(六波羅行幸巻)
鎌倉時代・13世紀



9月17日(水)～10月26日(日)

●群書治要 巻第22・巻第26
平安時代・11世紀



10月28日(火)～11月24日(月・祝)

●観楓図屏風 狩野秀頼筆
室町～安土桃山時代・16世紀



11月26日(水)～2009年1月4日(日)

●一遍上人絵伝 巻第7 円伊筆
鎌倉時代・1299年



1月6日(火)～2月1日(日)

●鳥獣人物戯画卷 丁巻
鎌倉時代・13世紀 京都・高山寺蔵



2月3日(火)～3月15日(日)

●法華経(久能寺経)
平安時代・12世紀 静岡・鉄舟寺蔵



3月17日(火)～4月12日(日)

●花下遊楽図屏風 狩野長信筆
安土桃山～江戸時代・17世紀

その他の主な作品の展示予定

本館(日本ギャラリー)

- 4月15日(火)～9月28日(日) ●金銀鍍宝相華唐草透華籠 平安時代・12世紀 滋賀・神照寺所蔵 3室
- 4月22日(火)～6月1日(日) ●鷹見泉石像 渡辺崋山筆 江戸時代・1837年 8室
- 5月8日(木)～6月1日(日) ●娘日時計・巳の刻 喜多川歌麿筆 江戸時代・18世紀 10室
- 5月27日(火)～7月6日(日) ○古今和歌集巻第十八断簡(高野切本) 伝紀貫之筆 平安時代・11世紀 個人蔵 3室
- 7月1日(火)～9月28日(日) ●刀 無銘(名物亀甲貞宗) 相州貞宗作 鎌倉～南北朝時代・14世紀 13室
- 7月1日(火)～9月28日(日) ●海賦蒔絵袈裟箱 平安時代・10世紀 京都・教王護国寺蔵 13室
- 8月19日(火)～9月28日(日) ●舍利啓白文 大休正念筆 鎌倉時代・1278年 3室
- 8月19日(火)～11月9日(日) ●老猿 高村光雲作 明治26年(1893) 18室
- 8月26日(火)～10月5日(日) ●納涼図屏風 久隅守景筆 江戸時代・17世紀 7室
- 9月17日(水)～10月26日(日) ●舞楽面 崑崙八仙 平安時代・1042年 奈良・手向山八幡宮蔵 特1室
- 9月17日(水)～10月26日(日) ●行道面 菩薩 快慶作 鎌倉時代・12世紀 兵庫・浄土寺蔵 特1室
- 9月30日(火)～11月9日(日) ●芭蕉夜雨図 太白真玄等十四名賛 室町時代・1410年 3室
- 9月30日(火)～11月9日(日) ●金光明経巻第2(目無経) 鎌倉時代・12世紀 個人蔵 3室
- 9月30日(火)～11月9日(日) ●四季山水図屏風 伝周文筆 室町時代・15世紀 3室
- 9月30日(火)～12月21日(日) 日本武尊 青木繁筆 明治時代・1906年 18室
- 11月11日(火)～12月21日(日) 白狐 下村観山筆 大正時代・1914年 18室
- 11月11日(火)～12月21日(日) 八幡切(麗花集) 伝小野道風筆 平安時代・11世紀 3室
- 11月18日(火)～2009年1月12日(日・祝) 書状(武蔵鑑の文) 千利休筆 安土桃山時代・1590年 4室
- 12月23日(火・祝)～2009年2月22日(日) ●厚板 金紅片身替詩歌模様 江戸時代・17世紀 9室

- 12月23日(火・祝)～2009年3月22日(日) ●片輪車蒔絵螺鈿手箱 平安時代・12世紀 13室
- 12月23日(火・祝)～2009年1月25日(日) 游刃有余地 横山大観筆 大正時代・1914年 18室
- 2009年1月14日(水)～2月8日(日) 遊女聞香図 宮川長春筆 江戸時代・18世紀 10室
- 2009年1月27日(火)～3月1日(日) ●十六羅漢像(第一尊者・第十四尊者) 平安時代・11世紀 3室

東洋館(アジアギャラリー)

- 5月8日(木)～7月27日(日) 金地一重菱中牡丹唐草文金襴(前田家伝来) 明時代・16～17世紀 第5室
- 5月20日(火)～9月21日(日) ●青磁茶碗 銘馬蝗絆 龍泉窯 南宋時代・13世紀 第5室
- 7月29日(火)～10月19日(日) 紫地向鳳凰丸文金襴(二人静金襴) 明時代・14～15世紀 第5室
- 9月9日(火)～10月5日(日) ●寒山拾得図(禅機図断簡) 因陀羅筆 元時代・14世紀 第8室
- 9月9日(火)～10月5日(日) ●六祖截竹図 梁楷筆 南宋時代・13世紀 第8室
- 9月9日(火)～11月3日(月・祝) 行書三帖卷 米芾筆 北宋時代・11～12世紀 第8室
- 10月7日(火)～11月3日(月・祝) ●紅白芙蓉図 李迪筆 南宋時代・1197年 第8室
- 10月7日(火)～11月3日(月・祝) ●李白吟行図 梁楷筆 南宋時代・13世紀 第8室
- 10月7日(火)～11月3日(月・祝) ●瀟湘臥遊図巻 李氏筆 南宋時代・12世紀 第8室
- 10月28日(火)～12月25日(木) 顧從德編「集古印譜」 明時代・1575年 第8室
- 10月28日(火)～12月25日(木) 呉俊卿作「蒼雲館印譜」 清時代・1876年 第8室

法隆寺宝物館

- 7月23日(水)～8月24日(日) ●狩獵文錦褥 奈良時代・8世紀 第6室
- 10月28日(火)～11月24日(月・祝) ●幡垂飾 飛鳥時代・7世紀 第6室
- 10月28日(火)～11月24日(月・祝) ●聖徳太子絵伝 秦致貞筆 平安時代・1069年 第6室

国宝薬師寺展

薬師寺展のみどころについては、東京国立博物館ニュース六八号と六八七号ですでお伝えしましたが、最後にもう一度、なぜお寺で拝観できる像を博物館に見に行かなければならないかという疑問（勝手に想定しています）についてお答えします。

金堂の日光・月光菩薩立像（図1）は像高三メートル余り、台座の上に立つのであわせて三メートル七〇センチほどの大きさです。お寺ではさらに五〇センチほどの壇の上に置かれるので、下から見上げることになります。そこで博物館では一二〇センチほどの高さの壇に上って御覧いただくことにしました。顔の表情やプロポーションがよく見えるはずです。さらに、お寺では像の後ろに光背が立つので背面は

まったく見えません。しかし光背は江戸時代に補われたものであり、今回の展示ではそれはつけずにあらゆる角度から御覧いただけるようになります。ほとけさまは正面から拝むもの、背中にまわるのはいかなるものかと思われるかもしれませんが、背面も見られることを前提に造ったとは思えないほど美しい後姿です。完璧な姿を求めていることでしょう。この機会を逃したら次は五十年後に見られるかどうかです。ぜひ御覧ください。この他にも東院堂聖観音菩薩立像、八幡三神坐像、慈恩大師像、吉祥天像（いずれも国宝）など薬師寺の国宝が集まることは言うまでもありません。

さて、薬師寺展を御覧になった後、ぜひお立ち寄りいただきたいところを紹介しましょう。まずは東洋館1階。ここに薬師寺の日光・月光菩薩立像と同じ頃造られた中国の仏像（図2）を展示しています。プロポーション、姿勢などを比較してみてください。そしてその関係の深さに思いを馳せてみてください。次に本館1階正面の「仏像の



図2 ◎阿彌陀三尊仏龕 唐時代・長安3年(703)
東洋館 第1室

道」。ここに七世紀後半に日本で作られた埴仏（図3）があります。姿は違いますが豊富な肉付きや写実的な衣の表現が日光・月光菩薩立像に通じます。薬師寺創建より早い時期に中国初唐文化の影響が伝わっていたのです。最後に法隆寺宝物館1

階。ここには七世紀前半から後半に造られた金銅仏（図4）が約五十躯展示されています。日光・月光菩薩立像の造形がいかに群を抜いたものであるかがわかります。（浅見龍介）



図3 独尊埴仏
飛鳥時代(白鳳期)・7世紀
本館 特別5室





国宝薬師寺展開催記念 宝物特別公開 薬師寺東京別院にて 「もうひとつの薬師寺展」

薬師寺東京別院
2008年3月25日(火)～6月8日(日)
9:00～17:00 会期中休みあり。
詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

重文「十一面観音菩薩立像」奈良時代・8世紀(薬師寺蔵)ほか、彫刻、絵画、書跡など16件を特別公開いたします。

〒141-0022 品川区東五反田5-15-17
TEL 03-3443-1620
JR山手線五反田駅より徒歩7分



図4 ◎銅造観音菩薩立像
法隆寺献納宝物 飛鳥時代(白鳳期)・7世紀 法隆寺宝物館第2室

記念講演会

- ① 4月12日 「奈良で映画をつくり続けて」河瀬直美氏(映画監督)
「薬師寺創建の精神とまほろば」安田暎胤師(薬師寺管主)
- ② 4月19日 「薬師寺 飛鳥から平城へ」東野治之氏(奈良大学教授・日本古代史)
「薬師寺ー1300年の歴史と文化ー」山田法胤師(薬師寺副住職)
- ③ 5月10日 「薬師寺薬師三尊像についてー初期律令国家の理想仏ー」
金子啓明(東京国立博物館特任研究員・彫刻史)
「薬師寺ー1300年の歴史と文化ー」山田法胤師(薬師寺副住職)
- ④ 5月24日 「薬師寺建築ー裳階の美」藤井恵介氏(東京大学大学院准教授・建築史)
「藤原京薬師寺から平城京薬師寺へ」松久保秀胤師(薬師寺長老)

開催時間：13:30～16:00(開場13:00) ＊途中休憩あり 会場：平成館大講堂
定員：各380名(事前申込制) 聴講無料(ただし、「国宝 薬師寺展」の観覧券が必要)
申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・
聴講希望する講演会(①～④)を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記して下記
までお申し込みください。1枚の往復はがきで1つの講演会につき1人の申込可。＊応募
多数の場合は抽選の上、受講券をお送りいたします。
申込先：〒113-8799 本郷支店私書箱第25号「国宝 薬師寺展」第⑩回講演会係
＊ご希望の講演会(①～④)をご記入ください。
申込締切：①3月27日(木)、②4月3日(木)、③4月21日(月)、④5月8日(木) 必着
お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)

万燈会

薬師寺の玄奘三蔵会大祭で行われる万燈会を、多数の置灯籠で再現します。
日時：4月11日(金)・18日(金)・25日(金) 18:00～20:00
場所：平成館前庭 鑑賞無料(ただし入館料は必要)

薬師寺展ガイドス

各回20分程度、薬師寺の僧侶が展覧会の魅力をお話します。
会場：平成館大講堂 定員：各380名(当日先着順) 聴講無料(ただし入館料は必要)
日時：3月25日(火) 11:00, 13:00, 15:00/3月28日(金) 13:00, 15:00
4月1日(火) 13:00, 15:00/4月3日(木) 13:00, 15:00/4月5日(土) 11:00, 13:00, 15:00/4月8日
(火) 13:00, 15:00/4月10日(木) 11:00, 13:00, 15:00/4月15日(火) 11:00, 13:00, 15:00/4月
17日(木) 13:00, 15:00/4月22日(火) 13:00, 15:00/4月24日(木) 11:00, 13:00, 15:00/4月29
日(火・祝) 11:00, 13:00, 15:00
5月1日(木) 13:00, 15:00/5月3日(土・祝) 11:00, 13:00, 15:00/5月6日(火・休) 11:00, 13:00,
15:00/5月8日(木) 11:00, 13:00, 15:00/5月13日(火) 13:00, 15:00/5月15日(木) 13:00,
15:00/5月18日(日) 11:00, 13:00, 15:00/5月20日(火) 13:00, 15:00/5月22日(木) 13:00,
15:00/5月27日(火) 13:00, 15:00/5月29日(木) 13:00, 15:00/5月31日(土) 11:00, 13:00, 15:00
6月3日(火) 13:00, 15:00/6月5日(木) 11:00, 13:00, 15:00/6月7日(土) 11:00, 13:00, 15:00

展覧会データ

平城遷都1300年記念 国宝 薬師寺展

2008年3月25日(火)～6月8日(日)
東京国立博物館 平成館特別展示室第1室～第4室

主催：東京国立博物館、法相宗大本山薬師寺、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社
後援：文化庁、奈良県、平城遷都1300年記念事業協会、東京都教育委員会、埼玉
県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会
協賛：王子製紙、キャノン、DIC株式会社、トヨタ自動車、光村印刷
観覧料：一般1,500円(1,200円)、大学生1,200円(900円)、高校生900円(600円)
＊中学生以下は無料、年齢の分かるものをご提示ください。()内は、20名以上の団体料金。
障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。
お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)
ホームページ：http://yakushiji2008.jp/ ※会期中展示替があります。



図1 ◎日光(向かって右)・月光菩薩(向かって左)立像
飛鳥(白鳳期)または奈良時代・7または8世紀 奈良・薬師寺蔵 ◎飛鳥園

日仏交流150周年記念
オルセー美術館コレクション特別展

フランスが夢見た日本 —陶器に写した北斎、広重

▶ランペールの楕円形皿
19世紀 オルセー美術館蔵



十九世紀のフランスでは、日本美術からの大きな影響のもと、さまざまな分野で類まれな芸術文化の花が開きました。印象派の画家たちや、エミール・ガレをはじめとする工芸家たちは、日本の美術工芸に触発されて、数々の傑作を残しています。そのなかで、浮世絵、とくに北斎、広重の芸術から着想を得てデザインに応用したテーブルウェア、「ブラックモン・ルソー」と「ランペール・ルソー」が生み出され人気を博したことは、日本ではあまり知られていません。

オルセー美術館はこの「ブラックモン・ルソー」と「ランペール・ルソー」の収集を鋭意進めています。日仏両国の間に外交関係が樹立されて一五

日仏交流150周年記念 オルセー美術館コレクション特別展 「フランスが夢見た日本 —陶器に写した北斎、広重—」

7月1日(火)～8月3日(日)
東京国立博物館表慶館

主催：東京国立博物館、オルセー美術館、
日本経済新聞社
後援：在日フランス大使館
観覧料：未定
※期間中展示替えがあります。

〇周年にあたる本年、この貴重なコレクションが日本で公開されることになりました。あわせて、これらのテーブルウェアの図柄のもとになった浮世絵も比較対照して展示いたします。この記念すべき機会に、日仏両国間の知られざる芸術交流の精華をお楽しみください。(今井敦)

特別展予告

創刊記念『國華』120周年・朝日新聞130周年 特別展 「対決—巨匠たちの日本美術」

7月8日(火)～8月17日(日) 東京国立博物館平成館

主催：東京国立博物館、國華社、朝日新聞社 後援：文化庁
特別協賛：DIAMアセットマネジメント 協賛：大日本印刷
観覧料：一般1,500円(1,300円/1,200円)、大学生1,200円
(1,000円/800円)、高校生900円(700円/500円)
※中学生以下は無料、年齢のわかるものをご提示ください。
()内は前売り/20名以上の団体料金。障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。
お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)
展覧会公式サイト：<http://www.asahi.com/kokka/>
※期間中展示替えがあります。

創刊記念『國華』120周年・朝日新聞130周年 特別展 対決—巨匠たちの日本美術

明治二十二年(一八八九)に岡倉天心らによって創刊された『國華』は、日本および東洋の優れた美術作品や作家を紹介・顕彰する、現役では世界最古の美術研究誌として海外にも広く知られています。発刊一〇〇号記念の「日本の山水画展」(一九七七)と創刊一〇〇周年記念の「室町時代の屏風絵」(一九八九)はともに当館で開催して好評を博しました。

創刊一二〇周年にあたる今夏には、二人ずつ組み合わせさせた巨匠たちの傑作を「対決」という斬新かつ簡潔な視点によって構成し、中世から近代までの日本美術史を見わたそうという特別展を企画いたしました。



◀石灯籠図屏風(右隻)
伊藤若冲筆 江戸時代・18世紀
京都国立博物館蔵

▼群仙図屏風(左隻)
曾我蕭白筆 江戸時代・明和元年
(1764) 文化庁蔵



した。「運慶と快慶」以下「雪舟と雪村」「永徳と等伯」「光悦と長次郎」「宗達と光琳」「仁清と乾山」「円空と木喰」「応挙と芦雪」「若冲と蕭白」「大雅と蕪村」「歌麿と写楽」「鉄斎と大観」という十二組です。両者の関係は、師弟・ライバル・私淑などさまざまでありますが、作品を対照することによって、巨匠たちの影響関係や競い合いの様子を肌で感じ取っていただきたいと思います。(松原茂)



●法華經方便品(竹生鳥經)(部分) 平安時代・11世紀
蝶・鳳凰・宝相華・雲芝雲・蕨・草花などの文様を大きく描いた料紙に書写されている

平常展見どころ案内 2008年4月・5月



琵琶湖竹生島に伝来した和様の装飾経

国宝 法華經方便品 (竹生鳥經)

4月22日(火)～6月1日(日) 本館2室 国宝室

平安時代中期のころから、末法思想が次第に蔓延し、人々は現世の極楽や成仏を願って、仏事供養に明け暮れ、写経に励むようになっていました。十二世紀に入り、装飾経が大量に書写されたのは、『法華經』が写経と作善の功德や、女性の成仏を説いていることと深く関わっています。

「竹生鳥經」は、鳥ノ子紙の素紙に金泥の界を引き、金銀泥で蝶・鳳凰・宝相華・雲芝雲のほかに蕨や草花などの文様を大きく描いた料紙に『法華經』を書写しています。琵琶湖の竹生島に伝来したことからこの名で呼ばれており、もと『法華經』八巻を備えたものであったと推定されています。このうち、序品は滋賀県の竹生島にある宝厳寺、方便品は東京国立博物館が所蔵し

ています。序品に加えられた松花堂昭乗の跋は、筆者を源俊房と鑑定していますが、その確証はありません。

奈良時代の写経の多くは、やや扁平で筆力溢れる謹嚴な楷書である写経体で書写されています。平安時代中期の十世紀後半から書体の和様化が進み、十一世紀には筆線の細い端正な和様の文字が多くみられるようになります。

写経料紙に下絵を描くことは、奈良時代からあったと考えられています。平安時代以降は装飾経などを中心に遺品が残っています。十一世紀後半には、金銀泥で蝶鳥草花などの下絵を描き、金界を施した美しい料紙に、法華經を書写することが流行しました。これらを「蝶鳥下絵経」と呼んでいます。

この「竹生鳥經」は、女手の写経といわれるほどの和様の書体で書かれており、その書風や、下絵の装飾文様などから、平安時代後期の書写と考えられています。以後、金銀を豊富に使用した豪華な「久能寺經」や「平家納經」などが登場します。題籤、八双、巻紐の露などに、種々に細工を施した金具を用い、軸首なども水晶の上から装飾金具を付けるなど、真善美の限りを尽くしています。当時の貴族は、莊嚴された写経を通して、極楽の世界を垣間見ていたのでしょうか。本經典は、その流行に先立つもので、穏やかで上品な和様の趣味をうかがうことができます。

(高橋裕次)

注目の 特集

平成館企画展示室

日本の美を後世に伝えるために 特集陳列「海外の日本美術品の修復」

5月13日(火)～25日(日)

海外に所在する日本の古美術品

海外に所在する日本の古美術品は日本文化を紹介する文化大使ともいえるべき役割を担っています。しかしながら、海外に所在する日本の古美術品のなかには、気候風土の違いなどから損傷が進み、公開に支障をきたしている作品も少なくありません。文化庁、外務省、国際交流基金、東京文化財研究所は共同で平成三年度から海外の美術館・博物館が所蔵する絵画作品を対象に在外日本古美術品修復協力事業を始めました。その後、事業は東京文化財研究所が実施し、平成九年度からは漆による工芸品にも事業対象を拡大するとともに、平成十八年度からドイツに漆工芸品の修復工房を開設し、日本から漆の専門家を派遣して修復をおこなっています。これまでに絵画ならびに漆工芸品の修復協力をした海外の美術館・博物館は四十八館、修復点数は三百三十二点になります。



花卉螺鈿ライティングビューロー
(修理前) 江戸時代・19世紀
クラフコ国立博物館蔵

今回の展示では、海外での修復が難しいため日本へいったん里帰りさせ国内の工房において修復をおこなう、平成十九年度末に完了した絵画五件と工芸品二点を公開いたします。この展示を通じ国際貢献・協力の一端をご理解いただければ幸いです。
(東京文化財研究所津田徹英)

【そのほかの展示作品】

釈迦十六善神像 南北朝～室町時代・14世紀後半 オーストラリア国立美術館蔵
花鳥図屏風 波月等臨筆 安土桃山時代・天正3年(1575) ヴィクトリア国立美術館蔵
阿弥陀三尊来迎図 一幅 室町時代・15世紀 リートベルグ美術館蔵
楼閣山水螺鈿筆筒 江戸時代・19世紀 キヨソネ東洋美術館蔵



日吉山王祭礼図屏風(修理前) 江戸時代・17世紀 ヒューストン美術館蔵



多武峯維摩会本尊図(修理前)
鎌倉末～南北朝時代・14世紀前半
キンベル美術館蔵

花の名所上野。東京国立博物館本館では絵画や工芸の名品に咲く桜を、庭園では次々に開花する10種類以上の桜をお楽しみください。夜はライトアップされた花で夢幻の世界を逍遥いただけます。

国宝「花下遊楽図屏風」公開

3月25日(火)～4月20日(日)、本館2室 国宝室
ほかにも桜にちなむ作品を本館で展示。
右の桜のサインが目印です。

夜桜見物

期間中の開館日 17:00～20:00(入園は19:45まで)
庭園をライトアップ ※荒天時は閉園することがあります

列品解説「江戸さくら探訪」

4月1日(火) 14:00～14:30 解説:田沢裕賀

夜桜コンサート

4月4日(金) 19:00～19:40 出演:ヴォクスマーナ
(声楽アンサンブル) ※詳細は13ページをご覧ください

ボランティアによるガイドツアー「東博桜めぐり」

期間中の開館日 11:00～11:45、13:30～14:15

ボランティアによる応挙館茶会「花見で一服」

3月28日(金) 14:00/16:00

* 応挙館と「応挙館障壁画複製制作事業」を紹介するパンフレットができました。大日本印刷株式会社のご助成によるものです。

博物館で
お花見を

3月20日(木・祝)～4月6日(日)
会期中連日 20時まで開館
(入館は19時30分まで・月曜日休館)

本館特別1・2室

新たな国宝・重要文化財をお披露目

特集陳列「平成20年新指定国宝・重要文化財」

4月22日(火)～5月6日(火・休)

重要文化財とは絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料、建造物など、日本にある有形文化財のうち、文化史的・学術的に特に重要なものを、かけがえない国民の財産として後世に伝えるため、国が指定するものを指します。さらに、重要文化財の中で特に優れた

たもの、学術的に価値の高いものは国宝に指定されます。
今回の特集陳列では、平成二十年(二〇〇八)、我が国の文化・歴史を代表する貴重な文化財として新たに指定されることになった国宝・重要文化財(建造物を除く)を展示します。ぜひ、ご覧ください。

※関連の講演会があります。13ページをご覧ください。

生活に密着したさまざまな道具類

特集陳列「アイヌの生業」

4月1日(火)～6月29日(日)

アイヌの人びとは日々の生活の中で機織具をつかって独特な衣服をつくり、多彩な刺繍をほどこしていました。狩猟はヒグマやエゾシカ、ウサギ、キツネ、タヌキ、オジロワシ、オオワシなどを対象とし、弓矢や槍などを用いました。ワシ類の羽根は交易品として利用されました。漁撈にはマレクとよばれる突き鉤や簀、落し簀を用い、サケやマスなどを獲っていました。海での漁は舟を操り離頭鉈りとうちづを使って大型魚や海獣類を獲るものでした。

今回の特集陳列では、機織の際のさまざまな道具や狩猟具、生活のなかで着用した衣服、木製の器など、生活に密着した資料をもとに、アイヌの人びとの生業の様子を紹介いたします。(日高慎)



同 部分



木綿製上衣 北海道アイヌ・19世紀
平子のはつ氏寄贈 4月1日～5月18日展示
左右対称の美しい刺繍

牡丹唐草文様がどのように変化推移していったか

特集陳列「名物裂」にみる文様Ⅰ——牡丹唐草文様の変遷——

5月8日(木)～7月27日(日)

名物裂めいぶつぎは、広くは鎌倉時代から江戸時代初期にかけて中国などから舶載された染織品で、大名家や社寺などに所蔵されたものもあれば、茶道の仕覆しふくや袋、書画の表装裂などに用いられ、とりわけ茶道の発展とともに形成されていきました。これらは中国の元・明・清時代に織られた金欄きんらんをはじめ緞子・錦・間道などが含まれます。今回は名物裂の文様にスポットをあて、毎回テーマにそって、その種々相をみてゆくことにします

す。一回目はとりわけさまざまな表現がみられる牡丹唐草文をとりあげ、年代の明らかな永和四年(一三七八)銘の牡丹唐草文金欄きんらんを基に、牡丹花と唐草が製作時期によってどのように変化推移していったかをご覧ください。(澤田むつ代)



金地一重蔓中牡丹唐草文金欄(前田家伝来) 明時代・16～17世紀 様式化の顕著な例

茶人に好まれた東南アジアの漆器と陶磁器

特集陳列「日本に将来された蒟醬と紅安南」

5月8日(木)～7月27日(日)

柔らかい陶土に白釉が掛けられ、手馴れた筆致の唐草文が特徴的なこの茶碗は、現在のベトナムで十六世紀に作られたものです。「紅安南」と呼ばれたこれらベトナムの五彩は、日本の茶人に好まれました。そのおほかさは、唐物や高麗物とは違った魅力です。

そして今回の特集陳列では、タイの漆器「蒟醬」も合わせてご紹介し

ます。蒟醬きんまとは、タイ語の「キンマーク」、檳榔樹びんろうじゅ「マーク」の実と石灰をまぜ、蔓草の葉に巻いて噛む「キン」という東南アジアに残る習慣を指す言葉が由来です。これらも江戸時代、貿易品として日本に運ばれ、茶入や菓子器などに用いられました。茶の湯の世界で好まれた東南アジアの漆器・陶磁器を是非ご覧ください。(三笠景子)



○五彩唐草文碗 ベトナム・16世紀
口縁の金の繕つくろいが、この茶碗が大切に伝えられてきたことを物語っています



本館10室 浮世絵と衣装

愛情豊かな母親像

重美 山姥と金太郎・杯

喜多川歌麿筆

4月8日(火)～5月6日(火)

源頼光の家来で四天王の一人とされる坂田金時^{さかたのきんとき}は、幼名を金太郎といい、相模足柄山の山中で熊などの獣を友達にして母親と暮らしていました。金時は頼光に怪力が認められて家来となつて京に上り、母親は山中に残つて山姥になつたといわれています。歌舞伎などにもこの伝説が取り上げられています。金太郎は、赤龍の子供だから体が赤いのだそうです。鳥居清長など他の浮世絵師は、金太郎の元気な子供らしさを描いていますが、美人画家歌麿は、山姥を愛情豊かな母親として描くことの方に心があつたようです。
(田沢裕賢)

○山姥と金太郎・杯
喜多川歌麿筆 江戸時代・19世紀



本館11室 彫刻

画家川端龍子の持仏

重文 毘沙門天立像

4月8日(火)～6月8日(日)

左手に塔、右手に戟を執つて、邪鬼の上に立ちます。少ない動きながら、堂々とした体です。表情には少しなまめかしさがあります。目に水晶をはめる技法が、その感をいっそう強くします。像内には、応保二年(一一六二)の年紀を有する毘沙門天の印仏が、多数納められていました。印仏は堂々とした体つきで、左手に塔、右手に剣を執ります。本像の持物は後補であるので、造像時はいは印仏のような姿であつたかもしれません。画家の川端龍子氏の持仏で、平成十四年に川端家より寄贈されました。
(丸山士郎)

◎毘沙門天立像 平安時代・応保二年(一一六二)頃
川端龍子氏寄贈 邪鬼を踏みしめる堂々たる姿



本館19室 近代工芸

西欧向けの華やかな花瓶

群蝶図花瓶

3月25日(火)～6月15日(日)

胴の全面に大小の蝶を金、銀、赤銅、四分一などの色金を用いた高肉象嵌、平象嵌で表わした花瓶。蓋の頂に大きな牡丹をかたどった銀製の鈕をつけた華やかな全体の姿は、この器が西欧への輸出用であつたことを物語っています。製作した金沢銅器会社は、旧金沢藩士長谷川準也、大塚志良ら

によつて明治十年(一八七七)に設立され、水野源六、山川孝次ら旧藩時代からの金工家を数多く擁し、一時は東京の起立工商会社に継ぐ大工房でした。明治二十六年(一八九三)のシカゴ・コロンブス世界博覧会出品作。
(加島勝)

群蝶図花瓶 明治時代・19世紀



法隆寺宝物館第6室 染織

人々により奉納された幡

平絹幡残欠

〈辛酉年銘〉

3月25日(火)～4月20日(日)

幡^{ばん}は旗で、仏事の莊嚴をはじめ、延命や追善供養などにも使われました。残欠になつたこの幡には、「辛酉年(養老五年・七二二)云々」の墨書があり、製作時期を知るうえで重要です。一部では別裂^{べつれつ}を継ぎ

接ぎして縫い合わせており、あり合わせの裂で仕立てたようにもみえます。一九六五年、中国の敦煌莫高窟からは、さまざまな裂を使った素朴な仕立ての奉納幡が発見されました。開元十三年(七二五)の年号と「絹を得られたので、幡を作つて発願する」旨の墨書がみられます。法隆寺の奉納幡にも相通するようで、興味深く思われます。
(澤田むつ代)

平絹幡残欠 奈良時代・養老五年(七二二)頃
縁の線の技法は、法隆寺独特のもので



平成館考古展示室

弥生時代の加飾の極み

重文 台付壺

常設展示

愛知県名古屋熱田区熱田貝塚出土
やや下膨れの形や小さい台部など、非常に均整の取れた土器です。口縁部の内側には綾杉状^{あやすぎ}に列点文^{れいてんもん}を施し、口縁部には横方向の櫛描文^{くしがらみもん}と丹塗り、体部には上方に列点文を、それより下には横方向の櫛描文と丹塗りを施しています。パレススタイルなどとも呼ばれるもので、弥生土器の中でも最も飾り

立てられた土器といえます。このような土器は、弥生時代後期から古墳時代初期ころまで作られました。赤と白(肌色)のコントラストが映える極めて美しい土器です。
(日高慎)

◎台付壺 弥生時代後期・i・3世紀 愛知県名古屋熱田区熱田貝塚出土 徳川頼貞氏寄贈
列点文と櫛描文、丹塗りの赤とのコントラスト



東京国立博物館 コレクションの紹介

第1回

当館は、長年にわたってご厚志により作品をご寄贈いただいてまいりました。本館20室の寄贈者顕彰室にはご寄贈者の皆様方のお名前が掲げられています。その中から特徴あるコレクションを選んで、順次ご紹介していきます。第1回は不孤斎広田松繁氏です。



青磁三閑人蓋置 明時代・17世紀
利休好みといわれる七種蓋置の
一つに数えられます

Collections of
Tokyo National Museum

Hirota Matsushige

広田松繁コレクション

広田松繁氏は明治三十年（一八九七）に富山県八尾町（現富山市）に生まれました。氏が東京に出て古美術商の世界に身を投じたのは十二歳のとき。著名な古美術商のもとで修行を重ね、関東大震災直後の大正十三年（一九二四）に盟友西山保氏とともに壺中居を創立しました。当時は、唐三彩や磁州窯など、従来茶道具として評価されていなかった中国陶磁を美術品として鑑賞する風潮が盛んになっており、岩崎小弥太氏、横河民輔氏、細川護立氏といった名だたるコレクターの知遇を得て、数多くの優れた古美術品を中国から請来しました。いわゆる鑑賞陶器の分野のパイオニアの一人です。昭和二十四年（一九四九）には隠退して不孤斎と号しました。

氏は昭和二十二年（一九四七）に五、昭和四十二年（一九六七）に一点、そして逝去の前年の昭和四十七年（一九七二）に収集品のほぼすべて、四百九十点を当館にご寄贈されました。広田松繁コレクションの受贈により、東洋館をはじめ、当館の展示は

格段に充実しました。

広田松繁コレクションの中核は中国陶磁ですが、氏は晩年に鎌倉の自宅に茶室を建てて茶の湯にも関心を向けたため、茶碗や水指といった茶道具にも優品が少なくありません。古美術商としての目と経験に裏打ちされた広田松繁コレクションは、水準が高いばかりでなく、きわめて個性적입니다。数多くの名品が含まれていますが、むしろ小品に見所のある作品が多いことが大きな特色といえるでしょう。

氏の三十三回忌にあたる平成十七年（二〇〇五）に八尾町は富山市と合併し、これを記念して富山市佐藤記念美術館において一昨年、昨年の二度にわたり広田松繁コレクション展が開催されました。当館でも本年四月八日から十一月十六日まで、本館4室「茶の美術」の展示を広田松繁コレクションのみで構成する予定です（会期中陳列替があります）。どうぞご期待ください。（今井敦）



◎青磁琮形水指 南宋官窯
南宋時代・12～13世紀
中国宋時代に宮中の御用品を焼いた官窯の青磁。水指に見立てられています



赤地金欄手宝相華唐草文碗
景德鎮窯 16世紀
保存状態が良好であり、大切に伝えられたことがわかります。



締切:5月12日(月)必着

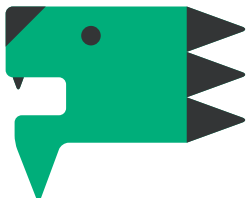
※締切の後、参加券をお送りします。
なお、応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

申込先:〒110-8712

東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館事業部教育普及
課ボランティア室

表慶館
HYOKEIKAN



みどりのライオン

みんなで楽しむ教育スペース
EDUCATION CENTER 教学中心 교육센터



打ち出しの途中段階
打ち出しが完成したあと周囲を切り落とし、
鍍金・彩色を施す

本館16室
歴史資料

歴史を伝えるシリーズ

特集陳列「博物図譜

—日本の研究の展開—」

4月1日(火)～5月25日(日)

日本における博物学の流行は、享保年間(1716～35)に幕府が実施した全国産物調査や、シーボルトなどによって本格的な西洋博物学が紹介されたことがきっかけです。科学的な視点から、物事をじっくりと観察して描いた「博物図譜」がたくさん誕生しました。現在、当館ではこうした博物図譜の画像データベースを、ホームページ上の情報アーカイブで公開しています。人々をあっと驚かせ、想像力や探究心をかき立てる博物図譜は、どのようにして作られたのでしょうか。今回は、中国の本草書、西洋の博物書から、明治時代に東博の前身である博物局が編集した「博物館図譜」にいたるまで、わくわくするような楽しい博物図譜の数々をご紹介します。(高橋裕次)



博物館写生図 明治時代・19世紀



表慶館
体験の間

「博物図譜の

動物・植物検索コーナー」

4月1日(火)～5月25日(日) [11:00～16:00]

特集陳列「博物図譜—日本の研究の展開—」にあわせて、表慶館では、東京国立博物館所蔵の博物図譜に描かれた、動物や植物の画像の検索コーナーを設けました。本館16室で展示しているページのほかには、どんな動物や植物が描かれているか、あるいは他

の図譜では同じ動物がどんなふうに描かれているか、コンピュータで調べてみてください。江戸時代から明治時代の人々がどのように動植物を観察していたか、写真のように精密に描かれた博物図譜の画像を、展示室とあわせてお楽しみください。



表慶館
創作の間

ファミリーワークショップ

「家族で作る博物図譜(昔の図鑑)」

特集陳列「博物図譜—日本の研究の展開—」で展示されている昔の図鑑「博物図譜」を参考に、オリジナル「博物図譜」を、家族で力をあわせて作ってみませんか? 展示作品から、ライオン、タンポポなど何かテーマを決めて、冊子の図鑑に仕上げてみましょう。

日時:①4月19日(土)13:00～15:00

②4月20日(日)13:00～15:00

会場:東京国立博物館 表慶館 創作の間

対象:小学生とその保護者

定員:各日 10組(先着順)

参加費:無料(ただし当日の入館料は必要です)

申込方法:往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで、①プログラム名「ファミリー図譜」②参加者全員の氏名(ふりがな)③郵便番号・住所④電話番号(FAX番号)⑤参加希望日を記入の上、下記申込先へお送りください。

申込締切:①②とも4月13日(日)必着
(定員になり次第締め切ります)

申込先:〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育普及室「家族で作る博物図譜」係

FAX:03-3822-3010

電子メール:edu@tnm.jp

お問い合わせ:TEL:03-3822-1111(代)

東京国立博物館 教育普及室

国際博物館の日記念 上野の山でゾウめぐり 博物館・動物園セミナー

「ゾウ」をテーマに3館をめぐる。

日時：5月18日(日)9:15～14:30

会場：恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館

対象：30名 参加費：650円(昼食代・飲み物込み)

申込方法：往復はがきに ①「上野の山でゾウめぐり」②参加者全員の氏名(フリガナ)③住所④電話番号⑤職業・年齢を書いて、下記の宛先にお送りください。

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
国立科学博物館情報・サービス課「博物館・動物園セミナー」係

申込締切：4月30日(水)当日消印有効

お問い合わせ：国立科学博物館情報サービス課
03-5814-9866

※応募者多数の場合は抽選。

月例講演会

会場：平成館大講堂 定員：380名(当日先着順)
聴講無料(ただし当日の入館料は必要)

「平成20年新指定国宝・重要文化財について」

岩佐光晴氏・池田寿氏
(文化庁美術学芸課主任文化財調査官)

特集陳列「平成20年新指定国宝・重要文化財」
(4月22日・火～5月6日・火・休)に関連して、彫刻と書跡の専門家にお話をうかがいます。

日時：4月26日(土)13:30～15:00(開場13:00)

国際博物館の日記念「東京国立博物館のはじまりの日々——博覧会・美術館・動物園」

木下直之氏(東京大学教授・文化資源学)

国際博物館の日(5月18日・日)を記念して、日本の近代史の中で東博の生い立ちを振り返ります。

日時：5月17日(土)13:30～15:00(開場13:00)

夜桜コンサート

出演：ヴォクスマーナ(声楽アンサンブル)

日時：4月4日(金)19:00～19:40(開場18:30)

場所：平成館大講堂 定員：380名(当日先着順)

曲目：さくら(日本古謡、武満徹編曲)、荒城の月(土井晩翠作詞、滝廉太郎作曲、林光編曲)、小さな空(武満徹作詞作曲)など

入場無料(ただし当日の入館料は必要)



表慶館
創作の間

「こどもたちのアートスタジオ 勾玉作り」

当館生涯学習ボランティアによるワークショップを開催いたします。

平成館考古展示室にある勾玉を見学した後に、滑石を削ってオリジナル勾玉を制作します。

日時：5月25日(日)13:30～15:30

会場：表慶館みどりのライオン「創作の間」

対象：小学校3年生から高校生

※保護者の方の見学も可能です

定員：10名程度

事前申込制 参加費無料(ただし保護者の入館料は必要)

申込方法：郵便往復はがきの「往信用裏面」に、「勾玉作り」とお書きのうえ、郵便番号、住所、参加される方のお名前(ふりがな)、学年、電話番号、保護者が一緒の場合はその人数を、「返信用表面」に、返信先の郵便番号、住所、氏名を明記し右記までお申込下さい。



表慶館
体験の間

制作工程模型 「押出仏ができるまで」

2月26日(火)～6月1日(日)

制作工程模型の新作として、法隆寺宝物館にある押出仏「阿弥陀三尊および僧形像」のできるまでを展示します。東京芸術大学文化財保存学専攻保存修復工芸研究室の大学院生が制作しました。押出仏とは、型にのせた銅板を槌で叩いて形を写し出したもので、

じつはとても薄いのです。裏側は、どうなっているのでしょうか。完成した当初の押出仏は、どのような輝きを放っていたのでしょうか。今回が初公開となる原寸大模型を見ながら、法隆寺宝物館にある押出仏が作られた時のことを想像してみてください。



阿弥陀三尊および僧形像
法隆寺献納宝物 飛鳥時代・7世紀

銅板に鹿の角をあてて
金槌で叩きながら、
細かな線や文様を打ち出す



みどりのライオン

INFORMATION

講演会「上野 一過去・現在・未来」

上野をよく知るお二人に、歴史や見どころについて語っていただきます。
上野のまちの魅力を新発見・再確認してみませんか。

日時 4月18日(金) 13:30開演(13:00開場)

場所 東京国立博物館 平成館大講堂

講師 二木忠男(上野観光連盟会長)、浦井正明(寛永寺執事長)

題目 上野 一過去・現在・未来—

※講演の前に、台東区文化振興課より台東区の文化・観光についての案内があります。

定員 380名(当日受付・先着順) 料金 無料 ※ただし当日の入館料は必要です。

お問い合わせ 東京国立博物館 イベント担当 TEL:03-3821-9270

チケットプレゼントのお知らせ

◆本誌4、5ページで紹介した「国宝 薬師寺展」の招待券を抽選で10組20名様にプレゼントいたします。締め切りは4月28日(月)必着。

◆本誌6ページで紹介した「対決—巨匠たちの日本美術」の招待券を抽選で10組20名様にプレゼントいたします。締め切りは5月20日(火)必着。

◆本誌6ページで紹介した「フランスが夢見た日本—陶器に写した北斎、広重」の招待券を抽選で10組20名様にプレゼントいたします。締め切りは5月20日(火)必着。

※プレゼントの応募方法

はがきに、チケットを希望する展覧会名、住所、氏名(ふりがな)、男女、年齢、職業、この号でいちばんおもしろかった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。

宛先: 〒110-8712 台東区上野公園13-9

東京国立博物館 広報室「ニュース4・5月号」プレゼント係

◆今年も「博物館に初もうで」は盛況でした

恒例の「博物館に初もうで」。今年は年頭から天候にも恵まれ大勢の方に楽しんでいただきました。平常展無料観覧日の1月2日には、獅子舞、和太鼓、江戸の遊芸が催され、平常展には8千人の方にご来場いただきました。

※「美術館・博物館へ行く—A Day in the Museum—」2008年1月2日は平常展無料観覧!は、次の法人・機関、企業の協力により開催されました。

主催・特定非営利活動法人美術ファンクラブ
http://www.bjutsufanclub.com/
・東京国立博物館・東京国立近代美術館
館ボーラ美術館



後援・文化庁
協賛・コスモ石油、三井住友海上、シヤディ株式会社、M-out Inc.

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館の活動を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究・平常展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)有効。賛助会員には、特別会員と維持会員との2種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上

維持会員 法人 20万円

個人 5万円

主な特典

- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付

*賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。

*お問い合わせ

東京国立博物館営業開発部
賛助会担当
TEL 03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2008年2月8日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社コア 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社 ミロク情報サービス 様
TBS 様
読売新聞東京本社 様
三菱商事株式会社 様
凸版印刷株式会社 様
ブルガリ ジャパン株式会社 様
財団法人 東芝国際交流財団 様

維持会員

三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社 三冷社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
井上 萬里子 様
京菓匠 鶴屋吉信 様
株式会社 東京美術 様
服部 禮次郎 様
藪内 匡人 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
和田 喜美子 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
上久保 のり子 様
櫛田 良豊 様
株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様
長谷川 英樹 様
池田 孝一 様
木村 剛 様
観世 あすか 様
コクヨファニチャー株式会社 様
星埜 由尚 様
株式会社 鴻池組 東京本店 様
株式会社 アクタス 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
稲垣 哲行 様
帖佐 誠 様
株式会社 古美術数本 様
飯岡 雄一 様
峯村 協成 様
高瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様
寺浦 信之 様
高木 美華子 様
暁飯島工業株式会社 様
山岡 ユウ子 様
古屋 光夫 様
根田 穂美子 様
松本 澄子 様
鷲塚 泰光 様
是常 博 様
上野 孝一 様
北山 喜立 様
謙慎書道会 様
社団法人 全国学校栄養士協議会 様
山田 泰子 様
原 桃介 様
近代書道研究所 様
田村 久雄 様
日本畜産興業株式会社 様
株式会社 秋華洞 様
高橋 徹 様
柴田 陸子 様
絹村 安代 様
高橋 良守 様
岡田 博子 様

臼井 生三 様
津久井 秀郎 様
藤倉 光夫 様
神通 豊 様
永久 幸範 様
五十嵐 良和 様
石川 公子 様
池田 慶子 様
株式会社 東京書芸館 様
青山 千代 様
藤崎 英喜 様
永田 実香 様
西岡 康宏 様
小川 徳男 様
友景 紀子 様
東野 治之 様
辻 泰二 様
竹下 佳宏 様
松原 聡 様
シチズンホールディングス株式会社 様
野澤 智子 様
有賀 浩治 様
吉田 幸弘 様
野崎 弘 様
坂田 浩一 様
池谷 正夫 様
池谷 徳雄 様
脇 泰一郎 様
秦 芳彦 様
宇田 左近 様
杉原 健 様
木谷 駿二郎 様
木村 茂直 様
インフォコム株式会社 様
渡久地 ツル子 様
汐崎 浩正 様
関 哲夫 様
堤 勝代 様
山下 由紀子 様
平井 千恵子 様
高谷 光宏 様
青山 道夫 様
(ほか39名3社、順不同)

◆今年度海外で行なう展覧会の紹介

■「聖なる山の寺宝 醍醐寺・日本密教の僧院」

会期：4月25日(金)～8月24日(日)
会場：ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール(ボン)

主催：東京国立博物館、奈良国立博物館、総本山醍醐寺、ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール

一千百年余りに及ぶ長い歴史を持つ真言密教の寺である醍醐寺に焦点をあて、絵画、書跡、彫刻、工芸といった多様な分野にわたる代表的な寺宝二百三十点余りを、ドイツ・ボンにおいて展示いたします。日本仏教、とりわけ密教の歴史とさまざまな仏教美術の姿を広くヨーロッパの人々に紹介し、日本の古代文化の優れた一面を理解いただくとする展覧会です。

■東京国立博物館所蔵名品展「サムライ—日本の武家の宝物—」

会期：5月23日(金)～7月16日(水)

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 4,000円 学生 2,500円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で

友の会

加入者名(振替先)東京国立博物館友の会
口座番号00160-6-406616

*振替用紙には職業・年齢・性別を楷書でご記入ください

パスポート

加入者名(振替先)東京国立博物館パスポート
口座番号00140-1-668060

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入のうえ、生徒手帳か学生証のコピーを郵送またはFAXでお送りください

*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください

*振替手数料はお客様の負担となります

*郵便振替でのお申し込みには2週間かかります

◆問い合わせ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当
FAX 03-3821-9680

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先)東京国立博物館ニュース
口座番号00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

*振替手数料はお客様のご負担となります

*次号より送付ご希望の場合、締切は5月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30～17:00、2008年3月20日から4月6日の開館日と4月11日から11月の特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、2008年4月12日～9月の土・日・祝・休日は18:00まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日～1月1日)。2008年4月28日(月)、5月5日(月・祝)は開館し、5月7日(水)休館、6月24日(火)は臨時休館。8月11日(月)は閉館。

平常展観覧料金

一般600(500)円、大学生400(300)円

*()内は20名以上の団体料金

*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

*満70歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

*講演会、ワークショップ、友の会・パスポートおよび本誌定期郵送等のお申し込みに際してご提供いただいた個人情報に関しては、当該の目的にのみ使用させていただきます。当館では個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします

会場：ロシア連邦クレムリン博物館(モスクワ)

主催：東京国立博物館、ロシア連邦クレムリン博物館

東京国立博物館が収蔵する日本美術の優品約七十件により、日本の武家文化をご紹介します。当館のコレクションがまとまった形でロシアにおいて展示されるのはこれが初めてのこと、ロシアの人々に優れた日本美術品に親しんでいただく機会となるでしょう。モスクワ・クレムリン博物館群が、その創立二百周年記念として、世界の主要美術館の収蔵品を紹介する特別展シリーズ「世界のロイヤルコレクション」の一環として開催されます。

◆ミュージアムシアターの上映作品が新しくなります

2007年11月2日(金)にオープンしたTNM&TOPPAN ミュージアムシアター。公開作品第一弾「国宝 聖徳太子絵伝」は大好評。上映日(金・土・日・祝休日)には多くの方々に臨場

感あふれる映像を240インチのスクリーンでお楽しみいただいています。

この「国宝 聖徳太子絵伝」の上映は3月23日(日)をもって一端終了しますが、その後10月28日(火)～11月24日(月・祝)の国宝「聖徳太子絵伝」秦致貞筆 平安時代・1069年の展示期間中に再度上映する予定です。3月28日(金)から始まる上映作品「マヤ文明 コパン遺跡」にどうぞ期待ください。

◆平成20年度総合パンフレットできました

新年度にあたり、当館の総合パンフレットも改訂版が出ました。日本語のほか英、中、韓、仏、独、西の六ヶ国語版があり、外国からのお客様にもたいへん好評をいただいております。

この外国語版パンフレットは財団法人 東芝国際交流財団のご助成により製作されています。

◆MUSEUM 612号

(平成20年2月15日発行)の掲載論文

- ①「天仏殿様四天王像に関する覚書—東大寺勧進所阿弥陀堂像の紹介をかねて—」岩田茂樹(奈良国立博物館美術室長)
- ②「東京国立博物館所蔵 高橋由一筆『雪景』の修理保存と新発見について」土屋裕子(当館文化財部保存修復課保存修復室主任研究員)
- ③「東京国立博物館所蔵『白地立木模様更紗』の技法と補修」石井美恵(染織品保存技師・山崎真紀子(染織品保存技師))
- ④「『白地立木模様更紗』に用いられた染料の科学的分析」塚田全彦(当館文化財部保存修復課環境保存室長)

※購読のお問い合わせは中央公論事業出版(電話03-3353-1321)へ。



◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉

特別展覧会「没後120年記念 絵画の冒険者 暁斎 Kyosai—近代へ架ける橋」
4月8日(火)～5月11日(日)

〈奈良国立博物館〉

特別展「天馬—シルクロードを翔ける夢の馬—」
4月5日(土)～6月1日(日)

〈九州国立博物館〉

特別展「国宝 大絵巻展」
3月22日(土)～6月1日(日)

2008年
4月

東京国立博物館4月・5月の展示・催し物

2008年
5月

1 TUE	国宝 薬師寺展 夜間開館(20:00まで) 列品解説「江戸さくら探訪」 14:00 本館10室 薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂*1
2 WED	夜間開館(20:00まで) 14:00 14:30
3 THU	夜間開館(20:00まで) 薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂*1
4 FRI	夜間開館(20:00まで) 夜桜コンサート 19:00～ 平成館大講堂*2 15:00
5 SAT	夜間開館(20:00まで) 薬師寺展ガイド 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂*1 13:30 15:00
6 SUN	博物館でお花見を 夜間開館(20:00まで) 14:00 14:30
7 MON	休館日
8 TUE	列品解説「高麗茶碗」14:00 本館14室 薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂*1
9 WED	14:30 14:00
10 THU	薬師寺展ガイド 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂*1 14:00 14:30
11 FRI	夜間開館(20:00まで) 記念トークショー 18:30 平成館大講堂*3 万燈会 18:00 平成館前庭*1 14:30
12 SAT	時間延長(18:00まで) 記念講演会「奈良で映画をつくり続けて」ほか 13:30 平成館大講堂*1 14:00 14:30
13 SUN	時間延長(18:00まで)
14 MON	休館日
15 TUE	列品解説「高麗時代の土器」14:00 東洋館第10室 薬師寺展ガイド 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂*1
16 WED	14:00 14:30
17 THU	薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂*1 14:00
18 FRI	夜間開館(20:00まで) 講演会「上野 一過去・現在・未来」13:30 平成館大講堂*4 万燈会 18:00 平成館前庭*1 15:00
19 SAT	時間延長(18:00まで) 記念講演会「薬師寺 飛鳥から平城へ」ほか 13:30 平成館大講堂*1 ファミリーワークショップ「家族で作る博物図譜」13:00*5 13:30 14:00 15:00
20 SUN	春の庭園開放 時間延長(18:00まで) ファミリーワークショップ「家族で作る博物図譜」13:00*5 12:30, 14:00 14:00 14:30
21 MON	休館日
22 TUE	列品解説「霊彩の騎獅文殊図」14:00 表慶館対話の間 薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂*1
23 WED	14:30
24 THU	薬師寺展ガイド 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂*1 14:00 14:30
25 FRI	夜間開館(20:00まで) 記念トークショー 18:30 平成館大講堂*6 万燈会 18:00 平成館前庭*1 14:30
26 SAT	時間延長(18:00まで) 月例講演会「平成20年新指定国宝・重要文化財について」13:30 平成館大講堂*7 14:00
27 SUN	時間延長(18:00まで) 記念歌会 14:00 平成館大講堂*6 14:00
28 MON	
29 TUE	時間延長(18:00まで) 薬師寺展ガイド 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂*1
30 WED	14:00 14:30

- ＝ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド、集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる樹木ツアー、集合場所：表慶館エントランスホール
＝ボランティアによる考古展示室ガイド、集合場所：平成館考古展示室入口
＝ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、集合場所：法隆寺宝物館1階エントランス
＝ボランティアによる応挙館茶会、集合場所：表慶館エントランスホール
(一般及び大学生は参加費500円、先着30名、開始1時間前に集合場所で整理券配布)
＝ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所：表慶館エントランスホール
(先着20名、開始30分前に集合場所で整理券配布)

1 THU	薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂*1 14:00
2 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
3 SAT	時間延長(18:00まで) 薬師寺展ガイド 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂*1 13:30 14:00 15:00
4 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
5 MON	時間延長(18:00まで)
6 TUE	時間延長(18:00まで) 薬師寺展ガイド 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂*1
7 WED	休館日
8 THU	薬師寺展ガイド 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂*1 14:00 14:00 14:30
9 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30
10 SAT	時間延長(18:00まで) 記念講演会「薬師寺薬師三尊像について―初期律令国家の理想仏―」ほか 13:30 平成館大講堂*1 14:00 14:30
11 SUN	時間延長(18:00まで)
12 MON	休館日
13 TUE	列品解説「インターネットと資料情報」14:00 表慶館対話の間 薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂*1
14 WED	14:00 14:30 14:00
15 THU	薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂*1 14:00
16 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
17 SAT	時間延長(18:00まで) 月例講演会「東京国立博物館のはじまりの日々―博覧会・美術館・動物園」13:30 平成館大講堂*7 13:30 14:00 15:00
18 SUN	時間延長(18:00まで) 上野の山でソウめくり 9:15*8 薬師寺展ガイド 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂*1 12:30, 14:00 14:00 14:30 国際博物館の日(平常展無料観覧日)
19 MON	休館日
20 TUE	列品解説「岡山県美作市平福出土の陶棺」14:00 平成館考古展示室 薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂*1
21 WED	14:30
22 THU	薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂*1 14:00 14:30
23 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30
24 SAT	時間延長(18:00まで) 記念講演会「薬師寺建築―裳階の美―」ほか 13:30 平成館大講堂*1 14:00
25 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 13:30
26 MON	休館日
27 TUE	列品解説「仏画の中に描かれた果物」14:00 表慶館対話の間 薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂*1
28 WED	14:00 14:30
29 THU	薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂*1 14:00
30 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
31 SAT	時間延長(18:00まで) 薬師寺展ガイド 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂*1 14:00

6/8まで

- ＝ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト)、集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによるこどもたちのアートスタジオ、勾玉作りコース
(事前予約制、詳細は本誌13ページ、当館ホームページをご覧ください。抽選10名)

*1「国宝薬師寺展」関連事業です 詳細は本誌5ページをご覧ください。
*2 無料イベントです 詳細は本誌13ページをご覧ください。
*3「国宝 薬師寺展」関連事業 事前申込制 申込は締め切りました。
*4 詳細は本誌14ページをご覧ください。*5 事前申込制 詳細は本誌12ページをご覧ください。
*6 事前申込制 詳細は国宝 薬師寺展公式サイトhttp://yakushiji2008.jp/などをご覧ください。
*7 詳細は本誌13ページをご覧ください。*8 事前申込制 詳細は本誌13ページをご覧ください。
※上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。
※屋外で実施するツアー・ガイドは荒天の場合中止することがあります。